

令和3年度一橋大学入学式 祝辞

令和3年4月4日
国連事務次長補 兼
国連開発計画（UNDP）危機局長
岡井 朝子

新入生の皆様、新2年生の皆様、ご入学おめでとうございます。

30年前、私も心躍る思いで入学式に臨んだことを思い出します。でもこの1年、コロナ禍の影響もあり、将来に不安を感じている人もいるのではと心配しています。そんな皆さんへの在学中の参考になればと、今日は、私の立場から見える世界像と皆さん方への期待をお話しさせていただきます。

国連開発計画、UNDPでは、持続可能な開発目標、SDGsが、私たちをよりよい地球、社会に導く羅針盤であると考え、全力をあげてその推進を図っています。

コロナ禍は、最も弱い立場にある人々が最も影響を受け、社会経済のあり方そのものに見直しを迫っています。これに加えて、極端化する気候と頻発する災害、プラスチックごみなどの環境破壊は、生態系だけでなく、人々の生活を直撃します。人類の活動が地球への負荷を高めた結果、逆に人間に悪影響が及ぶようになったのです。

コロナ禍からの復興は、それ以前からの様々な社会経済のひずみをもっと根本からたえず機会にしないといけません。国連では"Build back better"（より良く復興する）では足りず、"Build forward better"（社会を前進させよう）と呼び掛けています。今、世界で進もうとしている脱炭素化社会、デジタル化社会に向けた取り組みは、社会変革の大チャンスです。

SDGs達成期限の2030年までのあと9年をどう過ごすかによって、地球の未来が変わる。今、そんな岐路に私たちは立っています。私は、皆さんには、これまでの前提や先入観にとらわれない柔軟な発想で本質を見抜き、ばらばらにある点を、線、面でつなぎ、複合的課題に解を見出せる人になって欲しいと思います。なぜなら、時代がそういう人材を欲しており、皆さんが卒業する頃には、即戦力として必要だからです。一橋大学は、世界の諸課題を解決する社会イノベーションのための知識創造を使命としている大学です。皆さんがそういった力を身につける多様な機会を提供してくれるでしょう。

私からは3点、皆さんに心にとめておいて欲しいことを述べます。

第1に、情報ソースを多様化させ、多様な意見に耳を傾けること。

同じような考え方をする人といつも一緒にいると同じような考え方しかできません。私は、長年日本の外交官でしたが、今、国連で、日本の官僚組織にはない技能、知見をもち、

文化的背景も異なる多種多様な同僚の中で仕事をしていると、多様性のもつ創造、creationの力を実感します。皆さん、専門を極めるとともに、領域を超えて広く見聞を深めることも重要です。

第2に、模範解答のない問題に解を出すためのプロセスを学ぶこと。

教科書に書いてあることを暗記しても、今の社会課題への解は出てきません。客観的事実に基づき、新しいソリューションを見出す力はどこに行っても必要な能力です。複雑な課題に対し解を導く思考過程自体のイノベーションの手法がいろいろ出てきているので、それを身に付けて下さい。

第3に、規模の拡大への転換を意識すること。

最近日本でも大学生の間から、SDGsに資するベンチャーや地域に根差した異業種横断型イニシアティブが出てきていて、非常に頼もしく思っています。これを実験段階に終わらせず、より大規模に展開するためには、システムアプローチが必要です。また、学びと実践の間のテンポをもっと速めないといけません。皆さんには、社会が必要とするスピード感にあったイノベーションと新しいパートナーシップのあり方を柔軟な発想で提起して欲しいです。

UNDPは、さまざまな大学と協力してグローバルな課題を解決する先進的な取り組みに力をいれています。一橋大学とも連携協定を結ぶための準備をしていますので、今後、交流が深まることを期待しています。

先行きの見えない不透明な時代にあるからこそ、皆さんには、在学中、自分や地球のよりよい未来を切り開くための能力を養う機会にして欲しいと思っています。Build Forward Better! 皆さんに大いに期待しています。